

Title: 「ANDANTE☆」



谷本 冴海
20歳です。雨女です。方向音痴です。でも色んな人に出逢いに行ってきたます!!!

● 最近のエントリー

- ☑ キャメルサファリの思い出 (2010.06.30)
- ☑ ジャイサルメールの歴史 (2010.06.29)
- ☑ 海風が良いと思うよ。 (2010.06.21)
- ☑ エスカレーターのない国 (2010.06.21)

● アーカイブ

- ☑ 2011年02月
- ☑ 2011年01月
- ☑ 2010年10月
- ☑ 2010年09月
- ☑ 2010年08月
- ☑ 2010年07月
- ☑ 2010年06月
- ☑ 2010年05月
- ☑ 2010年04月
- ☑ 2010年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future



「ANDANTE☆」 > 2010年06月 アーカイブ

10.06.30

■ キャメルサファリの思い出

Tweet

いいね! 0

チェック

クーリーで行ったキャメルサファリで一番興奮したのは、
星空でなく(曇りであんまり見えなかったからね!残念すぎるよね!）、
この、ふんころがしくん。笑



どうです?
やつらの奮闘は。
こんな闘いがあちらでもこちらでも
繰り広げられていました。

もう夢中です。ワタシ☆
オリンパス片手に
(「飛ばないで、お願いだから、飛ばないで!」)
と心の中で唱えながら、
ずーっとおっかけてました^^

あ～、
朝起きたら顔に砂もってたけど、
砂漠でトイレも経験しちゃったけど(いや～開放的!)、
とにかく一番おもしろかったのはふんころがしなんです!
行ってよかった^^!

まだクーリーのレポートができていないのに...
気がついたら明日朝にはネパールに移動です。
インドもの凄く早かったなあ～

カテゴリ:

post by 谷本 冴海 | 日時: 2010.06.30 | [パーマリンク](#) | [コメント \(12\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

「ANDANTE☆」 > 2010年06月 アーカイブ

10.06.29

■ ジャイサルメールの歴史

Tweet

いいね! 0

チェック

ゴールデン・シティと呼ばれるジャイサルメール。
(浅井のブログで紹介がありましたね^^)

ここで休養をかねてお白しました。

今回はジャイサルメールの歴史をご紹介します。

ジャイサルメルは城壁に囲まれた街。
この地に都市が出来たのは1156年のこと。
インド西部の乾燥地帯ラージャスターン州に暮らすのは、
パッティ・ラージプート族。

度重なるイスラム系の東征からタール砂漠を転々とし、
王様は以前住んでいたロデルヴァという場所から15キロ離れた地に
格好の場所を見つけた。
そこは砂漠の平原にありながら、大きな窪地と、小高い丘があった。
窪地は水源になり、岩山は堅固な城壁となる。

王ラーウル・ジャイサルは防衛上ひ弱で水源にも不足する
ロデルヴァを放棄し、ここに新都市を建設した。
町は王の名をとって『ジャイサルメル』と名付けられた。
以後800年に渡って砂漠という地の利と、
難攻不落の城塞とで次第に発展していったのである。

しかしラージプートはラトール族のジョードブルをはじめとして、
ブンデルカント、メーワール、マールワール、ピーカーネルなどの
王国を作り、次第に争うようになった。

このラージプート戦争は西インドの諸地方を不安定にさせたため、
インドと西方を結ぶ東西貿易にとってタール砂漠が比較的安全な
通商路となった。
一方ジャイサルメルは大きな戦争に巻き込まれることなく、
16世紀から17世紀、平和な地として各地の商人や銀行家が
移住してくるようになった。
彼らは自身の多くの資産も共にジャイサルメルに移し、
ジャイサルメルは西インドの金融の中心地となったのである。

そして、イスラムとヒンドゥーが融和した17世紀から18世紀、
ジャイサルメルは東西貿易の中継地として絶頂期を迎えた。

しかし、英国の支配がジャイサルメルはこの地位を揺るがした。
インドの貿易の中心はボンベイやカルカッタ(コルカタ)などの
港を持つ都市の海洋貿易へと移り変わっていき、
さらに英国による鉄道の建設がデリーやボンベイなどを
シンド地方(現在のパキスタン南部)を結びつけ、
これにて完全にジャイサルメルは陸上貿易の中継地点という地位を失ったのである。

インドが英国から独立した頃には、ジャイサルメルの70キロ先に
パキスタンとの国境線が引かれ、東西を結ぶ通路でさえもなくなってしまった。

こうして一時繁栄したジャイサルメルは
外界からまったく忘れ去られてしまった。

このジャイサルメルが再び輝きを取り戻すのは、今からおよそ
60年前のことである。
タール砂漠から石油が発掘されたのだ。

繁栄と没落を経験した都市ジャイサルメルだが、
幸い大きな戦争に巻き込まれることがなかったために、
現在も城塞と城下町が造られた状態のまま残され、
人々はそこで暮らし続けている。

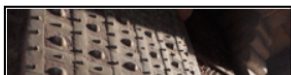
資産家達や商人達の利益にあやかって建てられた建造物には、
美しい彫刻が施され、人々は贅を極めた家やハーヴェリー(マンション)
を競い合うようにして建てたのだといわれている。

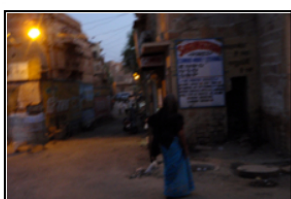
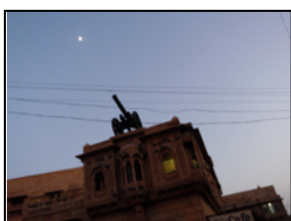
これがジャイサルメルが現在もおお、昔の面影のまま
存在し続けている背景なのです。

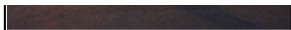
すみません、
長くなってしまいましたね^^;
ここまで読んでくれてありがとうございます。

なんだかこのジャイサルメルの歴史が面白くて書きたくてしまいました。
ほんとに溜め息が出る程美しい建造物ばかりでした。
人生初のお城探検もすごく楽しかったです。
お城の中と、城下町で暮らす人々...
本当にタイムスリップしたような町でした。
人々の生活はいたって普通です！携帯屋も電気屋もあります。
本当、町並みだけ...(まあ改築もしているようですが)

町並みは、こんな感じ。







はい！
写真も多くなってしまいました^^；
え？
なんかへんなのが混じってたって？

魅惑の女性ですね。あ、男性か。笑

さて、次はどうとうインド最後の撮影地クーリー村です。
ジャイサルメルから南西へ40キロの砂丘のど真ん中に位置する村。
クーリーでの日々は次のブログで。

カテゴリ：
post by 谷本 浜海 | 日時: 2010.06.29 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

「ANDANTE☆」 > 2010年06月 アーカイブ

10.06.21

海風が良いと思うよ。

[Tweet](#)

[いいね!](#) 0

[チェック](#)

はいー
どうとうインド入国ですね！
カンボジア以来のカオス交通～
帰ってきたーフィールドワーカー！

インドの日々はあっというまで、
まさかのもう後半、
ほんとと早すぎるよ...

毎日毎日路行くインド人女性に釘付けの毎日...
色鮮やかな布に包まれた女性達が美し過ぎます！ほんと！
一日に「綺麗だなあ～」って言わない日はありません。

日本もなあ～
着物やめなきゃ良かったのに。
文明開化なんて！

写真家目指す自分はぎとちょんまげにじんべえだな。(寂しい！)

コルカタでの2日もあっといまいに過ぎて、
(局長お久しぶりです^^)

撮影地のプリーへ。
マレーシアに続くフィッシャーマンヴィレッジの取材です。

村はこんな感じ。
海風が気持ち良い!(というか嬉しい。笑)



ですが...
どうにもメンタルが弱いわたし。。

「1るびー！」
「100るびー！」

と、差し出される手に、
向けられる笑顔に、
気持ちよく撮影が出来ません。

村に行くのが嫌になった日もある...

何かを売ったり、
買わそうしたり、
お金を要求しても、
それでもインド人は
「僕たちは友達だから」
と言います。

わからないです。
それが彼にとっての友達なのか、
それとも上辺だけの馴れ合いに向けた言葉なのか。

一緒に遊んだし、
村の案内もしてくれた。

外国人にお金を求めるのは、
しょうがないことで、当たり前のことだから、
だからちゃんと消化して、その上でこの村を見なきゃって。

思ってたんですけどね...

それでも手招きされたおうちに行ってみたら、
その人たちはちゃんと私自身に興味を持ってくれた。
それが嬉しかった。(ほんと子供だな)

サリーがとても綺麗で、インドの女性はみんな綺麗だねって
言ったら、
ピンク色のサリーをいただいちゃった!(びっくり)

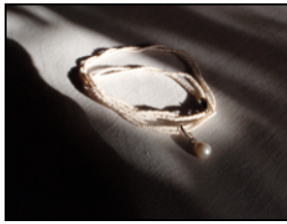
記念写真(笑)



16歳の女の子が背が伸びて着なくなったやつだと思う、たぶん。

私より全然背が高いから最初可い年くらい？って聞いてしまった。

サリーと真珠のネックレスまでいただいてしまいました。



必ず写真を届けたい。
ありがとう。すごく癒されたんだ。



なんだかんだ色々思ったりしたけど、
嫌いにはならなかったブリー。

そして、いつも面倒をみてくれたアバナ。
(商売上手の22歳！笑顔がね～売りですね、彼は。笑)



たまに不機嫌MAXな態度で挑んでみたりしたけど(あはは?)
一縮にいた時間は楽しかったし、
なんだかんだでもとても親切だったと思う。

ありがとう。

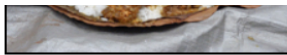
次の撮影地は砂漠の村、クーリー。
ここでもぎっと同じような気持ちになるかもしれない。(たぶんなる！)
だけど、同じようにまた働けなくなったら
ブリーに行った意味がほんとになくなっちゃう。

だから全部そのまま受け入れて、ちゃんと見たい。
だまされるなら、だまされる！
お金払うなら、もっと気持ちよく払う！
その分、働らせてもらいますよ！

を、モットーに谷本さん頑張りしたいと思います。

インドのカレーはおいしいです。
意外と好きです。
お花見みたいなのしました。





今度はデリー、ジャイサルメール、
そして最後がクーリーですね！

明日3日したジャイサルメールを離れ、
クーリー村へと移動します。

少々撮影に緊張しますが、
飛び込めば良いんだと思います。
あとは、なるようになれ。

今日は風が気持ち良い！
では！

post by 谷本 冨海 | 日時: 2010.06.21 | [ホームリンク](#) | [コメント \(10\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

カテゴリ:

「ANDANTE☆」 > 2010年06月 アーカイブ

エスカレーターの早い国

[Tweet](#)

[いいね!](#) 0

[チェック](#)

さぁどどんんいってみましょー。
目標はインド入国!!笑

SINGAPORE編です

たぶんみなさん他のメンバーのブログで
シンガポールでの出来事は十分知っているかと思われます。

怒濤に過ぎていった...

初めての海外写真展(日本でもやったことないのに!)
しかもかの有名なナショナルジオグラフィックさんのストアを
会場として使わせていただけることになり...恐縮でした。(いやほんとに!)

本当に全面サポートをしてくださった、
数々の皆様に御礼申し上げます。

FW設立当初からご協賛をいただいている、
株式会社OLYMPUS様
OLYMPUS・SINGAPORE様
株式会社ビクトリコ様

会場を提供していただいた
ナショナル・ジオグラフィック・ストア様

日本から浴衣とともに、手作りFWパンフ(英語版!)や
数々のグッズを総力あげて送ってくださった教務課の皆様

迅速な対応でパネル張りを手伝ってくれた斉藤先生!
(教務課恐るべし)

そして日本から駆けつけてくれた、
理事長、五十嵐先生、アンさん(五十嵐先生の奥様!)

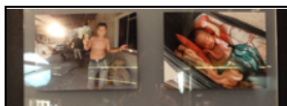
そして協力的なサポーターの我らがウォンさん!

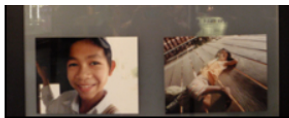
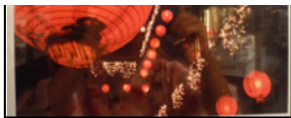
本当に
ありがとうございました!!

ナショナルジオグラフィック様のご好意で、開催期間も今月末までに
延長になったと聞き嬉しい限りです。

英語でのスピーチは
緊張したけど良い経験になりました。
ほんと、五十嵐先生がいなかったらどうなってたことやら...
ありがとうございました。(涙)

いつかほもっとスラスラと読めるようになりたいな。
スピーチが終わったあと理事長が、
「お客さんに言ってること分かる?と聞いたらね、
分かるよ、と言ってきていたよ。」
と言ってきてとても嬉しかったです。





まあ、写真展中の写真はみんなに任せるとして(えー)

疲れた女達の部屋は乱れに乱れます。
しょーがないんです。ね。



そしてシンガポール面白い建物がいっぱい！！
(エスカレーターもなぜか早い！笑)

ドリアンをイメージして作っちゃったらしい(実は×2個)
ドリアンぎらいよ



なぜか空中にカジノ船！！



そして極めつけはやっぱり愛しいこいつ。
ちびマーライオンのシュールさといったらもう！
でもほらこんなに人気者。



あ、こちらはおとーさん。(おかーさんかな?)



さすが貴様をお持ちですね。
よ！人気者！



シンガポールにはまだ巨大な金のマーライオンが生息してるらしいです。
でも水はかないんだって！
水はほいて欲しいよね！！ね！

どーん。(笑)



どきゅーん。くはぁっ
ってやられたこいつ...
みんなこれなんだかわかる？泣



おもしろいものいっぱいシンガポール。
さようなら。ありがとう。

よーし、お次はとうとうインド入国！

post by 谷本 冨海 | 日時: 2010.06.21 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

カテゴリ:

[「ANDANTE☆」 > 2010年06月 アーカイブ](#)

今さらなんて

[Tweet](#)

[いいね! 0](#)

[チェック](#)

言わないでね！

ブログupの機会を見失ってから、
早1ヶ月くらい経ちます！(おい)

やっちまりましたな。(ほんとだよ！)

ということで、ここで頑張って
どーーん！とあげてみたいと思います。

ということで、マレーシア編から。
コタバル、バンタイスリ村の続きです。

スクーリング前に一度バンタイスリ村について書いてますが、
肝心の村内のレポートがまだだったので、ざっくりと。

そうですね、ここで強く胸に残ってるのは、
ヤシの木めっちゃ多っ！！！！
ってこと。かな。



マレーシアのヤシのプランテーションの広さにはびっくりします。
ヤシの木のジャングルです。

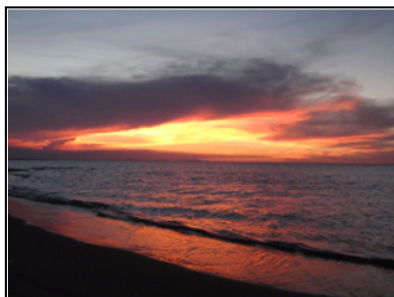
おばちゃん達と一緒に野菜を切ったりもしました。



街や学校への交通手段はボート。
リアルジャングルクルーズにときどき。



近くのビーチに連れてってもらいました。
よくここの人たちはビーチに遊びに来るみたいです。
遊んで、ご飯食べて、夕日を見て帰りました。
夕日の綺麗さといったら！！



真っ暗な島に到着すると、木には螢がきらきら。
本当に奇麗。もー素敵すぎる。

私は日本で生まれて、
バイトすればそこそこ時給はもらえるし、(大変だけど！)
カメラもパソコンもipodも携帯もなんでも持ってて、
不自由しない生活が出来る。

小さい時は日本に生まれて良かったって、
いつも思ってた。
戦争がなくて平和だから。(私の生まれた時代だから言えることですね)

でも、なんだか日本はもったいない。
発展と共に失ってるもの、沢山ある気がする。
別にそれがないから死んじゃうって訳じゃないけど、
うーん...難しい。

なんか私毎回同じようなことばかり言ってます？
そーなんです。
どこに行っても同じようなことばかり思うのです。
とりえず、これを経験できてる自分は幸せだな！

家族写真。



おとーさん、おかーさん、ディラ、イラ(妹)、アベ(弟)
どうもありがとう！

また来てねって
言ってもらえるのがとても嬉しいです。

さぁ、お次はスクーリング後に訪れた
SINGAPORE!!

カテゴリ：
post by 谷本 冨海 | 日時: 2010.06.21 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)